凡　例

一、『兵庫県百五十周年記念　兵庫県史〜この五十年の歩み』は、兵庫県百年史以降の昭和四十二年から平成三十年までを対象とし、「序」「第一編」「第二編」「第三編」「第四編」「結」からなるが、この巻は第三巻として「第三編」を収める。

一、「第三編」の対象とした時期は、平成七年から十七年までであるが、叙述の都合でその前後に及んでいるところがある。

一、文中の年号は、和暦を用い、節の初出ごとに（　）で西暦を付記した。

一、本文の記述は、原則として常用漢字・現代仮名遣いを用いた。ただし、固有名詞などで常用漢字以外の漢字を用いた箇所もある。

一、人名や、難読または誤読のおそれのある語句には、原則として章の初出ごとに振り仮名を付した。

一、人名は、原則として敬称を省略した。

一、市町名を旧名で記した場合は、原則として節の初出ごとに（　）で発行日現在

の名称を記した。

一、度量衡は、記述の内容により尺貫法も使用した。

一、本文中の写真・図・表にはそれぞれ通し番号を付し、出典を（　）で記した。図・表は巻末に一覧を掲げた。

一、本文の叙述は多くの研究成果に依拠しているが、本書の性格上、典拠を省略した。ただし、引用した場合は「　」で示し、出典を（　）で記した。なお、参考にした主な文献は巻末に掲げた。

一、執筆分担者は巻末に一覧で示した。

一、史料に基づいた本文の叙述の中には、不適切である等の理由により現在では用いられていない用語や、今日の社会通念によるものとは異なる表現もあるが、史実を正確に記録する観点から、そのまま用いた。

題字　黒田賢一

兵庫県150周年記念

兵庫県史 ～この五十年の歩み 第三巻

目次

口絵
凡例

第三編 阪神・淡路大震災と創造的復興……1

はじめに……3

第一章 地元主体の震災復興と地方分権改革……19

第一節 震災から一〇年間の県政……19

一 貝原県政期・後期（平成六（一九九四）年十一月―平成十三年七月） 19

二 井戸県政期・前期（平成十三年八月―平成十七年七月） 37

三 政界再編の時代 44

第二節　阪神・淡路大震災と県財政への多大な負荷……52
一　阪神・淡路大震災の復興財源確保　52
二　被災地負担の重荷を背負って―行財政改革の推進　58
第三節　地方分権改革と仕事の仕組みの改革……64
一　第一次地方分権改革　64
二　仕事の仕組みの改革　70
第四節　人口変動の中での平成の大合併……75
一　人口変動への対応　75
二　平成の大合併と県の果たした役割　77
三　震災後の市町財政　91
四　自治振興助成事業の見直し　93
第二章　震災の緊急・応急対応と防災体制の強化……95
第一節　世界初の高齢社会下の都市災害……95
第二節　阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた安全な社会づくり……110
一　防災対策の強化に向けた国の取組　111
二　県防災体制の抜本的整備と兵庫県内の動き　113

三　震災の教訓を踏まえた被災者支援体制の強化　120
四　自助・共助による社会の防災力の向上　122
五　教訓の国内外への発信　127
六　国際防災協力の推進　131
七　災害支援活動の展開　134
八　風水害や大規模事故等の発生と対応　136

第三章　創造的復興への軌跡……147

第一節　震災からの創造的復興の歩み……147
一　世界初の高齢社会下の都市災害　147
第二節　緊急・応急対応期（平成七（一九九五）年八月まで）……149
一　地方主体の復興計画の策定と復興組織　150
二　復興を支える仕組みづくり　155
三　復興に向けた取組の開始　158
第三節　復旧期（平成七（一九九五）年九月～平成十年三月）……159
一　復興の推進体制と戦略的プロジェクト　159
二　被災者の生活再建支援　161

三　震災犠牲者の追悼と被災地からの情報発信　166
第四節　復興前期（平成十（一九九八）年四月～平成十二年三月）……167
一　復興を検証　168
二　復興計画のフォローアップ　169
三　復興課題への対応　170
第五節　本格復興期（平成十二（二〇〇〇）年四月～平成十七年三月）……172
一　復興の仕上げを目指す　173
二　本格復興期の諸課題への対応　176
三　復興への支援に感謝し教訓を語り継ぐ　177
第四章　産業復興と産業活動の新展開……181
第一節　産業復興と不況からの脱出を目指して……181
一　震災被害と産業復興への取組　181
二　グローバリゼーション下の県内製造業　197
三　流通業で進む資本の集中化と苦境に置かれた既成大規模小売店　210
四　雇用環境の急速な悪化と本県の対応　215
第二節　阪神・淡路大震災とその後の農林水産業……222

一　阪神・淡路大震災と農林水産業の復興　222
二　地産地消と兵庫県産品のブランド化の推進　224
三　家畜に関する伝染病と畜産業　228
四　林業・水産業を取り巻く国内・国際状況と県の取組　232
第三節　震災と新たな科学技術と情報通信の発展……237
一　震災復興における科学技術　237
二　大型放射光施設ＳＰｒｉｎｇ－８の完成　241
三　高度産業科学技術研究所の整備充実　243
四　防災技術研究とＥ―ディフェンス　246
五　震災と新たな情報化の展開　247
六　兵庫県のＩＴ革命の推進　258
第五章　震災後のまちづくりと県土の交流基盤の形成……265
第一節　震災後の地域づくりと地域再生……265
一　成熟社会における創造的復興への道筋　265
二　ひょうごフェニックス計画とその成果　267
三　ビジョンの時代のまちづくり　272

四　循環型社会づくり　277
五　調整と再生のまちづくり　281
六　交流と連携の新展開　287
第二節　住宅復興と多様な住宅供給・団地再生……290
一　復興のための住宅供給と住宅政策の転換期　290
二　阪神・淡路大震災と住宅復興　291
三　住宅市場・ストックの活用を重視した住宅政策への展開　301
第三節　住民主体の公園緑地化……306
一　この時代の緑地、公園、景観政策の状況　306
二　県政の柱としての景観政策　308
三　防災と緑化　311
四　多様化する公園　318
第四節　県土の震災復旧と社会基盤整備の進展……322
一　山地・砂防施設・河川・海岸構造物等の被害と復旧　324
二　震災復興と社会基盤整備の進展　330
三　風水害からの防災基盤の復旧・復興　336
四　風水害に対するソフト対策の推進　338

五　水資源計画から水ビジョンへ　340
六　下水道基盤整備の進展　342
第五節　交通基盤の復興復旧と「関西三空港」時代の到来……343
一　阪神・淡路大震災による交通インフラの被害と復旧　345
二　ひょうご二一世紀交通ビジョンの策定　361
三　総合交通体系の整備　363
四　道路インフラの復興・整備推進　365
五　鉄道等公共交通インフラの復興・整備推進　368
六　空港施設の復興・整備促進　370
七　港湾施設の復興　374
第六章　被災者の生活復興と災害救急医療の構築……377
第一節　被災高齢者・障害者への支援と福祉政策の大転換……377
一　阪神・淡路大震災における被災高齢者・障害者への支援　377
二　高齢社会到来と高齢者福祉の変革　390
三　ノーマライゼーション理念の実現に向けて　399
四　ユニバーサル社会の実現に向けた取組　408

五　地域福祉の拡充　410
第二節　少子化対策の強化と広がり……414
一　少子化の進行と少子化対策の強化　414
二　保育ニーズの高まりと待機児童対策　420
三　子ども家庭福祉施策としての地域子育て支援　425
四　発達障害への着目と法整備及び家庭支援　428
五　児童虐待の顕在化と社会的養護への負担増　432
六　青少年問題の多様化・複雑化と地域づくり　436
七　青少年の健全育成　440
第三節　長期不況下の社会福祉……443
一　バブル経済崩壊後の貧困問題　443
二　平成前期から中期にかけての年金制度　451
三　母子・父子福祉の向上と自立・就労支援施策の導入　452
四　ドメスティック・バイオレンス対策の始動　456
第四節　災害救急医療と多様化する健康医療対策……461
一　医療機関の復旧復興と災害救急医療体制の整備　461
二　県民の生命と健康を守る取組　465

第五節　人権の尊重される社会づくり……477
一　人権という普遍的文化の構築を進める時代　477
二　人権教育・啓発の在り方　482

第七章　県民の参画協働による多彩な交流社会の創造……489
第一節　ボランティア元年と生活の創造的復興……489
一　ボランティア元年から始まる生活復興　489
二　つながりが地域の生活を築く　501
三　消費者とその環境の変化　512
四　男女共同参画社会の到来　523
五　地域で安全を守るために　533
第二節　環境の保全と創造……539
一　創造的復興と新しい環境行政　540
二　都市環境の改善に向けた取組　562
三　豊かな海と森の創造　573
第三節　文化復興と芸術文化の創造……576
一　震災からの文化復興　576

二　二一世紀を切り拓く芸術文化の創造　587
第四節　豊かなスポーツライフの創造……589
一　震災復興支援への感謝の気持ちを込めたのじぎく兵庫国体・のじぎく兵庫大会の開催　589
二　地域における豊かなスポーツライフの構築へ　596
三　競技化する障害者スポーツ　608
四　公営競技の規模縮小　611
第五節　震災を契機に大きく前進した国際交流……614
一　地域の国際協力の在り方の模索　614
二　在日外国人と災害　627
第六節　観光ひょうごの復興とツーリズムへの変革……633
一　観光ひょうご復興への始動　633
二　明石海峡大橋の開通等による観光復興　636
三　観光からツーリズムへ　638
四　震災復興期における県内観光動態の推移　642
五　本格的な国際ツーリズムへの展開　646

第八章　生きる力の育成と心の教育の充実……649
第一節　震災からの復旧復興と新たな防災教育の展開……649
一　震災からの教育の復旧復興　649
二　県内私学の震災復興　657
三　震災の教訓を踏まえた新たな防災教育　660
第二節　学校教育の課題と心の教育の推進……666
一　神戸連続児童殺傷事件と心の教育　666
二　学校教育の課題解決に向けて　673
第三節　二一世紀の魅力ある学校づくり……678
一　完全学校週五日制と県民がかかわる教育　678
二　二一世紀の魅力ある学校づくりに向けて　682
三　高等教育機関の多様な展開―大学新設や統合、専門職大学院　696
第四節　私学教育の動向と県の助成……704
一　中学校卒業者急減期の対応と共学化の波　704
二　私立専修学校・各種学校をめぐる動き　707
三　私学助成の変容　710
第五節　生涯学習体系の整備と社会教育の充実……712

一　社会教育施設・生涯学習施設の被災　712
二　「生活創造」と生涯学習・県民運動の総合的・体系的な推進　721
三　県域での生涯学習推進体制の総合的な整備　724
四　社会教育・家庭教育の広がり　726
五　兵庫の生涯学習―震災復興の歩み　737

コラム　市民福祉社会への協働憲章（平成十一年）　412　二〇〇一年は「ボランティア国際年」　500　避難所運営で奮闘する教職員　652　分校方式の授業再開と仮設校舎―県立兵庫高等学校　656　小学校高学年「教科担任制」とは　688　兵庫私学からノーベル賞受賞者も　706

〔巻末付録〕
執筆者一覧
県史編纂関係者名簿
資料提供者並びに協力者

図・表一覧

参考文献一覧